

令和7年度 自己点検・評価結果報告書【研究】

推進責任者：研究・グローバル戦略担当理事

1.自己点検・評価の実施概要及び判定結果

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
研究の実施体制及び支援・推進体制が適切に整備され、機能しているか。 (A-1-①)	研究の実施や、研究を支援し推進する体制を整備していること	研究実施体制の整備状況を確認する。	・教職員配置状況等関係資料（R6.5.1） ・科学研究費採択状況／外部資金受入状況 ・令和6年度科学研究費獲得状況の報告	適切である
		研究支援体制や研究を推進する体制の整備状況を確認する。	・令和6年度熊本大学URA体制図 ・技術部組織体制 ・技術部の主業務及び業務依頼の案内 ・設備共用促進の案内 ・「第4期中期目標期間における研究力強化ための支援の方策」	適切である
研究活動に関する施策が適切に定められ、実施されているか。 (A-1-②)	研究推進のための施策を実施し、公正な研究を推進していること	学内の資源配分に関する措置や研究に係わる規定の策定等を確認する。	・「わかば研究推進事業」公募要項 ・令和6年度「わかば研究推進事業」採択者一覧 ・令和6年度「わかば研究推進事業」配分額一覧 ・「クロス・フロンティア研究推進事業（第2期）」公募要領 ・「クロス・フロンティア研究推進事業（第2期）」採択者一覧 ・「クロス・フロンティア研究推進事業（第2期）」配分額一覧 ・「国際先端研究Σプロジェクト」に関する要項 ・令和6年度「国際先端研究Σプロジェクト」支援対象一覧 ・令和6年度「科研費リトライ支援事業」実施要項、支援実績 ・PI等人件費の支出により確保された財源の活用に関する取扱いについて ・研究力強化財源活用制度の運用について ・令和6年度活用実績報告書 ・令和6年度研究推進会議議事要旨（第1回～第10回）	適切である

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
		公正な研究を推進し不正を防止する体制を整備していることを確認する。	・公正な研究活動及び公正な研究費の執行を推進する体制（図） ・研究倫理教育受講状況：研究者及び事務職員（令和6年度末時点） ・研究不正に係る誓約書提出状況（令和6年度末時点） ・公正研究推進ハンドブック第4版（R4.4発行） ・公正研究便り（Vol.17～20）	適切である
研究活動の質の向上のために研究活動の状況を検証し、問題点等を改善するための取組が行われているか。 （A-1-③）	研究活動の結果、当初の目的が達成されていること	間接経費を活用した事業等の実施状況、達成状況を確認する。	・「わかば研究推進事業」審査及び評価要領 ・「クロス・フロンティア研究推進事業（第2期）」審査及び評価要領 ・「クロス・フロンティア研究推進事業」中間報告書 ・「国際先端研究Σプロジェクト」審査及び評価要領 ・「国際先端研究Σプロジェクト」の最終評価及び申請審査について ・「国際先端研究Σプロジェクト」令和6年度年次報告書 ・「国際先端研究Σプロジェクト」第1期最終評価・第2期申請審査結果 ・令和6年度 科研費リトライ支援事業支援実績	適切である
研究活動の実施状況から判断して、研究活動が活発に行われているか。 （A-2-①）	研究成果物の発出や共同研究の実施、競争的研究費等への応募が行われていること	研究成果の発出状況を確認する。	・論文数及び被引用TOP10%論文数 ・特許出願数一覧（令和6年度実績） ・熊本大学プレスリリース（令和6年度）	適切である
		共同研究、受託研究の実施状況を確認する。	・共同研究、受託研究受入状況（外部資金受入状況より） ・共同研究の推移	
		競争的研究費等の応募状況を確認する。	・令和7年度 科学研究費応募状況報告資料 ・その他の研究費への応募状況	

自己点検の観点	自己点検・評価項目	実施方法	エビデンス	判定結果
研究活動の成果の質を示す実績から判断して、研究の質が確保されているか。 (A-2-②)	研究活動の結果、競争的研究費等の獲得や外部からの評価、質の高い成果物の発出が行われていること	競争的研究費等の獲得状況を確認する。	・ 科学研究費採択状況及び外部資金獲得状況 ・ 令和6年度科学研究費獲得状況	適切でない
		外部評価や受賞状況を確認する。	・ 令和6年度受賞状況	
		質の高い研究を実施していることを確認する。	・ 論文数及び被引用TOP10%論文数	
社会・経済・文化の領域における研究成果の活用状況や関連組織・団体からの評価等から判断して、社会・経済・文化の発展に資する研究が行われているか。 (A-2-③)	社会・経済・文化の発展に貢献する研究の実施や研究成果を発出していること	研究成果が社会・経済・文化の発展へ貢献していることを確認する。	・ 公開講座等（令和6年度実績） ・ 特色ある取り組み（地域連携）	適切である

2.結果総括

【優れた点】 ●外部資金の獲得状況 共同研究受入件数及び受入額については、過去最高となり、受託研究費も1億円増加している。科研費、受託研究費、寄附金を含めた受入額は、79億円超とこちらも過去最高額となっている。 (参照資料→A-1-① 外部資金等受入状況) ●公正な研究の推進と不正防止体制の整備 本学における研究不正の防止に資する取組として、「熊本大学における研究倫理教育の実施要領」を制定した。当該実施要領において、研究倫理教育の受講を、過去5年度以内に1回としていたものを、過去3年度以内に1回に変更して義務付けることで、研究倫理の向上を図ることとした。 また、公正研究推進事務室では、研究不正を防止するための取組として、剽窃検知・チェックソフトiThenticateを導入しており、本学に所属する研究者及び大学院生を利用対象者としている。令和6年度は、iThenticateのアップデートが実施されたこともあり、教職員及び大学院生へアップデート案内とともに利用周知を行った結果、iThenticateの新規利用申請者数が前年度と比較し92%増加（65人→125人）した。 (参照資料→A-1-② 研究倫理教育受講状況、研究不正防止に係る誓約書の提出状況)
【改善を要する点】 ●科学研究費獲得状況、論文数、被引用TOP10%論文数 令和6年度科学研究費獲得状況について、前年度と比較し、約6,500万円のマイナスとなっている。また、論文数及びTOP10%論文数についても、前年と比較し、それぞれ30件程度のマイナスとなった。 第4期中期目標・中期計画の達成に向けて、科研費の獲得及び論文数の増加に向けた取組が必要である。